「地域医療連携」ってな~に?ということで、今回は「地域医療連携」について 「宮崎医療連携実務者協議会」事務局に現状を伺いました。

宮崎医療連携実務者協議会

●よく聞くけど"地域医療連携が大事"ってどういうこと?

医療連携は患者中心の医療を実践するために「医療機関の機能と役割を分化し、お互いの強みを発生かし弱みを補完して、地域全体で医療の質の向上と効率化を図る」ために行うものであるとされています。また、2000年4月の診療報酬改定で200床以上の医療機関とそれ以下の医療機関との機能分化が明確化され、2002年10月の診療報酬改定では、平均在院日数のさらなる短縮などによって、地域における医療連携の必要性がますます強まっています。※1

このような流れから、それまでの「自己完結型医療」から、「地域完結型医療」が求められるようになりました。それにより地域における医療機関同士、さらには保健・福祉分野との連携が必須となってきたため、専門部署である地域医療連携部門が多くの医療機関につくられるようになりました。

●「宮崎医療連携実務者協議会」とは?

そのような背景から、宮崎県内の医療機関にも地域医療連携の部門が設置されてきました。しかるし正直なところ、当の連携担当者でさえ何をしたらよいのか、隣の施設は何をしているのか分からないというのが実情でした。そこで連携担当者同士のネットワークへの要望が高まり、県内各地で活動している医療連携担当者が一同に集まり、連携室の在り方を始め様々な問題点を協議し情報交換・交流を深めていく場として2006年9月に「宮崎医療連携実務者協議会(以下「協議会」)」が設立されました。

『●協議会では何をしているの?

協議会はこれまで10回開催され、毎回100名を越える参加を得ております。参加者は、連携部門に所属する看護師、MSW、事務を中心に、医師、ケアマネジャーなど多彩です。内容は、県内医療機関連携部門の活動報告、特別講演、シンポジウム、グループワーク等時宜にかなったものをおこなってきました。ケアマネジャーの方々が多数参加された第9回では、「医療と介護の相互理解のために何が必要?」をテーマにグループワークを行い、医療・介護それぞれの立場からの問題点が、でき彫りとなり、我々をとりまく様々な状況をお互いに把握するきっかけとなりました。

●最後に

連携の基本としてお互いを尊重し、フェイス・トゥ・フェイスの関係であることを常に心に留め 置きながら今後も宮崎県における連携の推進の一翼を担える協議会であるべく世話人一同活動をする すめていきたい、と考えています。

| 宮崎市介護支援専門員連絡協議会との連携も深めていけたらと思いますので、協議会開催の折に |はお気軽にご参加ください。今後ともどう**ぞ**よろしくお願いいたします。

※1「地域医療連携Mook」編著:田城孝雄氏,2004,日総研

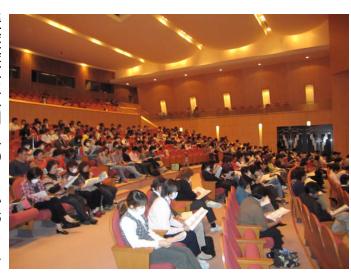
代表世話人	県立日南病院	医療連携科	木佐貫 篤
世話人	県立日南病院	医療連携科	黒木 直子
	県立宮崎病院	医療連携科	市木 育子、松浦 佳子
	県立延岡病院	医療連携科	佐藤 由起子
	宮崎市郡医師会病院	地域医療連携室	山森 恵子
	古賀総合病院	地域医療連携室	荒木 友子
	宮崎江南病院	地域医療連携室	北御門 奈月
	いしかわ内科	地域連携室	甲斐 俊二
事務局	潤和会記念病院	地域連携室	豊重 直弥、伊福 香織
		(直通電話 OS	985-47-5314)



宮崎市介護支援専門員連絡協議会 広報誌 発行日:2010年3月19日 Vol.2

宮崎市4連絡協議会合同研修会が開催されました

基調講演では、共生ホーム よかあんべ代表の黒岩尚文氏 を講師にお招きし「認知症 その人らしい生活を支えるた めに、これまでを振り返り、



これからを考える」と題して、大変熱い講演を頂きました。

これまで私達が利用者の支援を行う中で、介護保険だけで支えようとしてこなかったか?支援する側の都合でサービス提供してこなかったか?認知症を正しく理解して支援を行ってきたか?・・・など振り返ると考えさせられる問いかけに参加した皆さんも様々な思いを抱いたのではないでしょうか。「木を見て森を見ず」のケアではなく、利用者がどの様な状態であっても地域の一員としての暮らしが継続していける支援を行っていく必要がある事を改めて実感させられました。

パネルディスカッションでは牛谷義秀氏をコーディネーターに迎え、各パ



4連絡協議会合同研修でもふれられた、高齢者虐待と認知症について、「宮崎市中央地区地域包括支援センター」の吉田修さん(社会福祉士)から伺いました。

高齢者虐待と認知症について

昨年末に厚生労働省が出した、「平成20年度 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果(平成21年11月20日)」によると平成20年度の養護者による高齢者虐待についての相談・通報件数は21,692件 平成19年度が19,971件であり1,721件(8.6%)増加したと報告されています。

また平成17年に東京都が調査した「東京都高齢者虐待事例情報調査の結果について」によると被虐待者の認知症率は「認知症あり介護必要46.2%、認知症あるがほぼ自立10.5%、認知症の疑いあり12.7%」となっており被虐待者の認知症率は疑いも含めて合計すると69.7%となっています。さらに同じ資料から虐待の要因について見ると「高齢者本人の認知症による言動の混乱」が要因の37.8%となっています。被虐待者の7割近くに認知症があり、さらに認知症が原因として虐待にいたる割合も4割近いことが分かります。

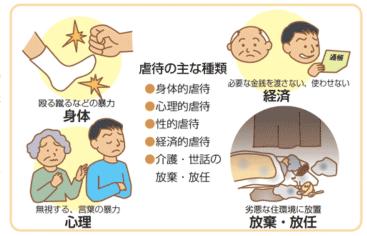
それでは宮崎市の高齢者虐待の状況ですが通報相談件数は平成18年40件、平成19年54件、平成20年64件と増加傾向にあります。また認知症率も介護保険の認定を受けている場合に限定されますが3ヵ年を平均すると66%の方が自立度Ⅱ以上となります。

以上の結果、認知症と高齢者虐待の関連性は非常に強いことが言えるのではないかと思います。

最後に高齢者虐待の発見通報者内訳ですが前出の厚生労働省資料によると「介護支援専門員・介護保険事業所職員」が43.8%と半数近くを占めています。介護支援専門員の皆さまの日々の活動によりかなりの数の高齢者が早期に虐待発見、予防につながっている事を表しています。今後もひとりでも多くの高齢者を虐待から発見・予防する為にも皆さまのお力添えなしでは出来ませんのでご協力をよろしくお願いいたします。

(参考資料)

- ・厚生労働省 平成20年度 高齢者虐待 の防止、高齢者の養護者に対する支援 等に関する法律に基づく対応状況等に 関する調査結果
- ・東京都 高齢者虐待事例情報調査の結 果について
- ・宮崎市 高齢者虐待資料



各委員会の一年を通しての感想

相談・サポート委員会 米良誠剛

私は、坂本理事をはじめ他のメンバーと一緒に相談・サポート委員として活動させていただきました。そこで「介護支援専門員の業務実態の把握」を目的に個別の業務についての会員の意識調査をアンケート形式にて行いました。このアンケートについては、たくさんの会員の方々からご多忙のなか貴重なご意見等をいただきまして本当にありがとうございました。皆様の貴重なご意見を少しでも無駄にしないように活かしていければと思っております。この1年間、相談・サポート委員にご協力いただきまして本当にありがとうございました。

スキルアップ・研修委員会 岡崎浩司

委員会初年度であり、責任の重さを感じながら、会員の皆様にとって、有益なものになることを第一に考え、〈ケアマネジメントをおもしろくしよう!〉というテーマのもと、私たちの仕事の中核であるケアマネジメントについて、会員による手作り参加型の研修企画を行ってきました。会員の皆様、今年度の研修はいかがだったでしょうか。

研修打合せでは、内容が煮詰まることもありましたが、委員の皆様の知恵とアイデアで乗り越えることができ、振り返ると、テーマに沿った研修が企画できたのではないかと思います。

最後に、福元さん、横山さん、委員の皆さま、みなさんと一緒に活動できてとても勉強になりました。ありがとうございました。

広報・渉外委員会 綟川易典

情報発信、会員確保という使命のもとで発足しましたが、 初年度ということもあり、まずは広報活動の基盤を築くこと に重点を置き活動してきました。本年度は2回の広報誌を発 行することができ、一安心といったところです。また、ホー ムページ開設に向けても話し合いも重ねましたので、環境が 整い次第実現可能だと確信しています。

この一年を通して、広報・渉外委員会のメンバーと活動で きたことは、貴重な経験でした。また、他の委員、役員また

多くの会員の皆様と知り合えたことも大きな財産だと思っています。本当にありがとうございました。

施設支援研修委員会 大石美香

今年度、協議会事業の新たな取り組みとして施設ケアマネの支援を行うことを目標に委員会が発足いたしました。これまでのケアマネ協の特徴が、居宅ケアマネを中心とした研修内容が多かったこともあってか、施設ケアマネの会員登録が非常に少ないことから、我が委員会の目標の一つである会員加入促進の重要性を感じ、今後の協議会への参加について施設のケアマネが求めているものはなんぞや!ということから、業務内容の実態把握と課題の整理のためアンケートを実施しました。

アンケートについては寄せられた悩みについても取りまとめを行い、その中から見えてきたことに関して求められている物を検討しているところです。

現状では、施設ケアマネは相談場所が少ないため、もっと情報交換の場がほしい。という意見も多く、施設ケアマネにも参加をしていただけるような魅力ある研修の開催を次年度の課題に設定して進んでいきたいと思います。これからも、よろしくお願いします。